

設楽発掘通信

No.34
平成30年
1月号

平成二十九年度成果報告会を行います

平成二十九年度の設楽ダム関連の遺跡発掘調査が、二月に終了します。本年度は、大畑遺跡とマサノ沢遺跡を調査しました。主な調査成果として、大畑遺跡では縄文時代中期の竪穴建物を中心とする集落跡、マサノ沢遺跡では縄文時代後期の石棺墓・配石墓を中心とする墓地などが確認されました。調査に際し、多くの皆様のご協力とご支援をいただき、ありがとうございました。

調査中には、両遺跡で地元説明会を予定しましたが、残念ながら雨天のため中止になりました。また、名倉小学校と田口小学校の児童の皆さんには体験発掘に参加いただきました。

なお、今年度の設楽ダム関連調査につきまして、成果報告会を左記のように三月三日（土）に開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。

（愛知県埋蔵文化財センター 永井^{ながい}宏幸^{ひろゆき}）
発掘調査成果報告会『新設楽発見伝』のご案内

日時：平成三十年三月三日（土）午後一時～午後四時（受付開始午後〇時三十分）
会場：設楽町田口特産物振興センター（設楽町田口字向木屋三番地一号）
内容：平成二十九年度に行われた発掘調査成果の報告と関連する講演会・座談会。出土遺物・写真の展示。
その他：参加は無料です。

※二月中頃に、詳細な内容をご案内いたします。愛知県埋蔵文化財センターのホームページ（<http://www.naiibun.com>）、または電話（〇五六七・六七・四一六三）でご確認ください。

成果報告会にて報告予定の遺跡と出土遺物（上段はマサノ沢遺跡、下段は大畑遺跡）



マサノ沢遺跡全景（南から）



岩偶3兄弟



岩偶出土配石墓



土偶



竪穴建物跡 300SI

300SI 出土縄文時代中期深鉢



副炉

副炉を備えた065SIの石囲炉

竪穴建物跡 362SI



大畑遺跡遠景（北から）

大畑遺跡の調査

五月から実施している大畑遺跡の発掘調査も、いよいよ佳境を迎えています。現在は、調査区中央を南北に走る谷状地形を埋める黒色土の掘削を終え、その下から見つかった遺構の掘削を進めています。

今回の調査で、縄文時代の竪穴建物跡が数棟見つかったことは、前号までに紹介した通りです。それらは黒色土に対して、北側、西側の斜面上に位置しています。それに対応してか、黒色土中から出土した遺物も中央よりも西側から多く見つかる傾向がありました。

出土した遺物を見ると、磨石や石皿と考えられる石器が目につきます。これらは、いわゆるドングリ類やトチノキといった木の実をすり潰す加工具と考えられているものです。居住域に隣接した低地部で、当時の人々（女性たちでしょうか・・・）が談笑しながら木の実をすり潰していた、そんな光景が思い浮かびます。さらに、現在掘削中の遺構から、食料の貯蔵や加工に関連する痕跡が見つかるかもしれません。



調査区中央の谷を埋める黒色土（南から）



黒色土の下で見つかった遺構の掘削（北西から）



切り株をチェーンソーで切断



ベルトコンベアのメンテナンス

最後に、まだまだ紹介できていない発掘作業の名場面の一部を紹介したいと思います。

遺構掘削は、手ガリと手スコが基本の掘削道具となりますが、ベテラン作業員さんとなると、他にもいろいろな秘密道具を駆使します（写真右下）。

山間地での調査では、必要に応じて切り株を切断することもしばしば。気分は木こりです（写真左上）。

ベルトコンベアは発掘現場では重要な機材です。掘削した大量の土砂運搬に耐えるために、メンテナンスも欠かせません（写真左下）。

（株式会社二友組 鷺坂有吾）



遺構掘削

マサノ沢遺跡の調査

マサノ沢遺跡では、十二月中旬ごろにA区南半部とB区の空中写真撮影を行いました。下の写真はその時に撮影した写真と九月末に撮影した写真を合成した全景写真です。今号では、調査区の中に多量に広がっている礫に関して紹介したいと思います。

まず、最初に調査したA区北半部では、礫が川側に均質に広がっている様子が観察できたため、自然堆積と考えました。しかし、A区南半部やB区北半部では、砂層が広がる中、限られた範囲に不均等な大きさの礫が集中して見られました。また、礫が集中する範囲からは多くの遺物が出土しています。以前の設案発掘通信や地元説明会などでも紹介した土偶や岩版といった希少な遺物が出土したのもこの周辺です。このことから、礫の集中部が何かしらの遺構である可能性が高いと考えていますが、詳細はまだ検討中です。ちなみに、前号で紹介した配石墓・石棺墓もこの周辺で多く検出しました。

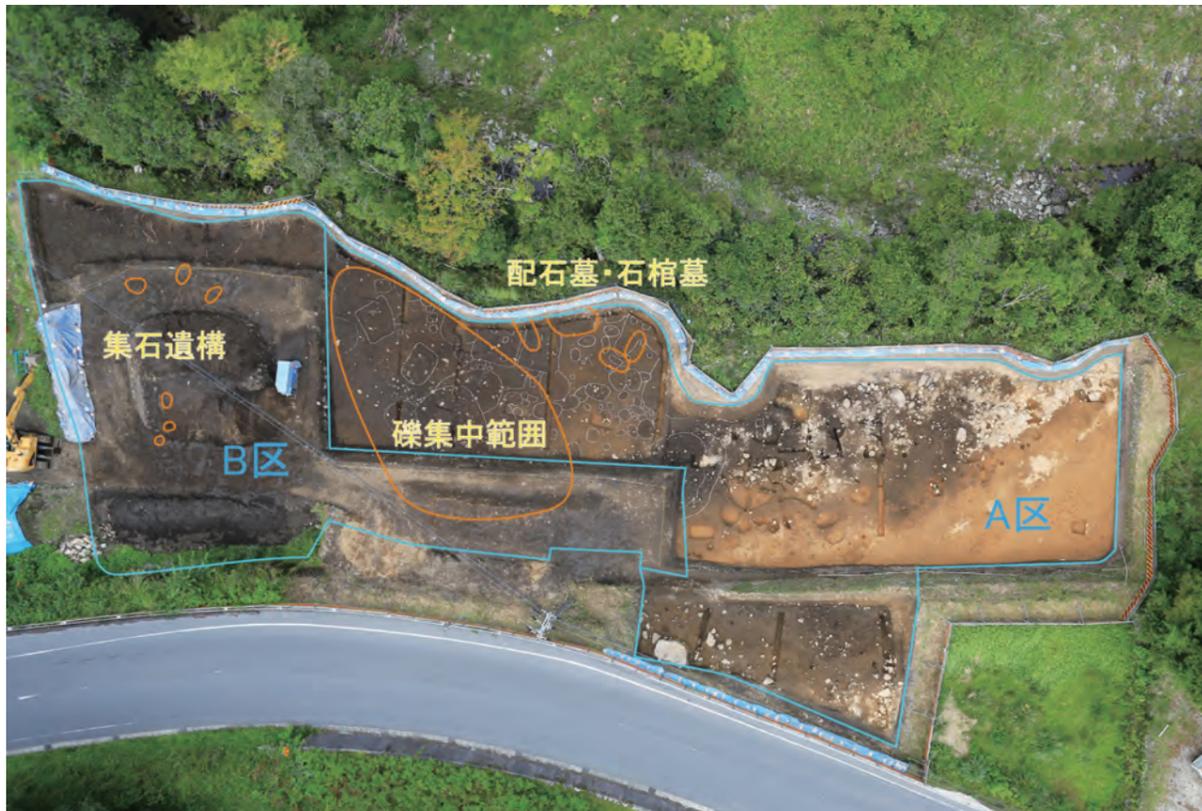
次に、B区南半部では、礫が多量に入った土坑がいくつか見つかっています。このような遺構は集石遺構と呼ばれており、過去の滝瀬遺跡や川向東貝津遺跡の調査でも多く見つかっています。縄文時代早期〜中期（約一万年〜五千年前）に多く見られ、特に早期に多いとされます。これらは集石炉とも呼ばれ、蒸し焼き等利用されたものと推定されていますが、今回は集石炉とも呼ばれ、蒸し焼き等の痕跡等は確認できておらず、該当する時期の遺物も出土していません。そのため、こうした集石炉と同様のものかはわかりません。中には大きな礫を含み、壁面に礫を配しているように見えるものもあり、これらは配石墓・石棺墓の可能性もあります。

マサノ沢遺跡では多くの貴重な成果が得られました。調査もあと少しですが、まだどのような発見があるかわかりませんので、ご期待ください。

（株式会社二友組 岩瀬大輔）



集石遺構



全景写真（右が北）

愛知県の岩石「松脂岩」しょうしがん

発掘調査を進めてゆくと、いろいろな石の道具がみつかります。小さな石鏃から大きな炉石まで、様々な大きさや形の石が使われています。さてこれらの石は、すべて同じ石でしょうか？また、どこから運ばれてきたのでしょうか？

遺跡の調査で出土する岩石として有名なものが「黒曜石」こくようせきです。この岩石はガラス質（ガラスのような）組織を持っているので、鋭利な破断面が作りやすく石鏃などには大変適した岩石です。設楽町の周辺では黒曜石の岩体は知られていません。距離的に近い黒曜石の産出地として、長野県の諏訪湖の北、星箕峠や和田峠が有名です。

ところで、この黒曜石によく似た岩石で、黒い「松脂岩・真珠岩」しんじゅがん（写真上）というものがあります。ご存知でしょうか？

実はこの「松脂岩」、二〇一六年五月十日（地質の日）、日本地質学会から、愛知県の岩石として選定されました。地質調査で「松脂岩」の岩体が鳳来寺山周辺にまとまって存在していることが確認されており、国内でこれだけの「松脂岩」がまとまって存在する地域が他に知られていないことが選考理由となっています。（新城市の石にも指定されています。）「松脂岩」は、一六〇〇万年



新城市川売採取の松脂岩

ほど前に鳳来湖付近に存在した火山に由来するものです。成因はよくわかっていませんが、火山が噴出してマグマが急冷されると「黒曜石」になり、「黒曜石」と水分が反応して「真珠岩」や「松脂岩」ができるとされています。「黒曜石」の水分量は1%未満、「真珠岩」は4%以下、「松脂岩」は5%以上と定義されています（石を粉末にして測定します）。さて、黒曜石に似た「松脂岩」ですが、遺跡の発掘調査ではなかなか確認されきませんでした。そもそも見た目は黒曜石に似ているのですが、バラバラと崩れ

やすく、石鏃を作るのは難しい岩石なのかもしれません。これまでの愛知県内の調査においても製品としての利用が確認されたことはありませんでした。「松脂岩」の産出地は、鳳来寺山や棚山高原、仏坂峠など、設楽町に近いのですが（図参照）、石にうるさい縄文人には利用されなかったのかもしれない。ところが、先日ついにみつきました。マサノ沢遺跡の遺物の中に一点、石鏃に利用されていました（写真左）。今後の調査ではまだまだ見つかるかもしれません。楽しみですね。（愛知県埋蔵文化財センター 堀木真美子）



松脂岩産出地とマサノ沢遺跡



マサノ沢遺跡出土
松脂岩製の石鏃

設楽発掘通信

No.34

平成30年1月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567)67-4161【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun



印刷・協力

株式会社二友組